

日本における県別銀行貸出市場分断仮説の再検証 — 県別貸出金利の誘導形を用いたパネル共和分検定による実証分析 —

京都大学 石川 大輔

近年、日本においては、地方経済の疲弊に伴い、地域金融に関する諸問題を経済学的に分析することの必要性が高まっている。しかしながら、県ごとに銀行貸出市場を分析することがそもそも意味を持つためには、貸出市場が県ごとに分断されているという前提が絶対的に重要となる。

このような問題意識から、本論文は、日本における銀行貸出市場が県ごとに分断されているのか否かを、県別パネルデータに共和分検定を適用することにより検証したものである。

県別の銀行貸出金利の誘導形に対して、Kao(1999)が提案したパネル共和分検定を行った結果、各県を特徴づける変数である県民総生産や県別預金額(マネー)等が、符号条件を満たす形で銀行貸出金利に有意な影響を与え、かつ、それらの変数間に共和分関係が存在することが確認された。この実証結果は、日本の銀行貸出市場は県ごとに分断されているということを強く示唆するものである。